審査の結果の要旨

氏　名　　銭　毅

本論文は、広東省開平市を中心とする、いわれる「五邑華僑地区」に広範に分布する「開平碉楼」の歴史と保存に関する研究についてである。

序章では、開平碉楼の定義と研究の背景を述べているが、今も数多く現存する開平碉楼は、五邑の華僑文化の代表的な遺産として、世界文化遺産への登録申請が展開されており、その歴史性、文化性において高い価値を有する建築物といえる。こうした背景を有する開平碉楼について、悉皆調査を中心とする実証的研究を基本に、中国農村建築の歴史的な変遷とも重ね合わせた検証によって、幅広く論じられているところに特徴がある。

第二章では、開平碉楼の起源と初期開平碉楼の特徴について述べられている。開平碉楼の起源は16世紀中頃に遡るが、当時の社会状況や社会政策として実行された屯田地開拓、客家の当地への移住などとの密接な関係についての分析が成されている。初期開平碉楼の特徴についても、外観や構造など中国伝統建築からの分析と、防衛、見張りなどの機能面からの分析と相俟って、その特徴が明確にされているといえる。

第三章では、近代開平碉楼の発展と変容について論述したものである。近代開平碉楼は、清朝末期から1950年代までに建造されたものを指しており、建築技術、機能、外来文化など様々な側面から、分析されている。その中で、近代開平碉楼は、海外へ移住した華僑の歴史と文化と深く関わっており、華僑が海外の労働で稼いだ収入により、故郷の家族のために築いた家屋であるが、当時の匪賊の横行による社会不安から身を守るため、防御機能がより高い建造物を建て､家族の安全と財産を守るための建築物として存在した｡その数は1920年代をピークとし、3000棟余りに上るが、こうした多数の碉楼の建設に発展していった要因は、正に社会不安から資産を守る防御性の重視にあった。さらに、近代開平碉楼は、近代建築技術が適用され、その多くが煉瓦積みからコンクリート構造へ移り、昔からの防御機能としての「衆楼」､「更楼」から、華僑の「居楼」へと変容し、華僑資本によって栄えた金融業の「舗楼」にまで展開していく。海外移住した華僑達は、積極的に海外文化を取り入れ、近代開平碉楼は、いわゆる洋風スタイルに変容していく。こうした、近代開平碉楼の変容について、当時の社会経済状況、華僑の海外移住と帰国後の生活にまで明快な分析が行われている。

第四章では、こうした変容過程における華僑の故郷への思いが、村全体の防御施設としての役割を担ったり、故郷に錦を飾る象徴であったり、華麗な碉楼を建設することにより昔日貧苦と決別することであったりなど、華僑達の碉楼に対する思いを込めた建築と人間感情との係わりが浮き彫りにされている点が興味深い。

第五章は、碉楼の建造の仕方、即ち資金長達から施工に至るまでの当時のつくり方を明らかにしたものである。個人の碉楼は金持ち華僑にしか建造できなかったが、公共碉楼建設の資金調達は、割り勘方式か株式方式によった。また建築の請負は、いわゆる随契か入札のどちらかであり、設計については、地元の職人達が建造の実践を通じて、設計の技量を高めていったものであるが、施工の順序まで含めた、いわば「一連の建造システム」が存在していたことが、数々の証言や資料から裏付けられ、明らかにされていることは高く評価できる。

第六章は、開平碉楼及び華僑社会と空間の近代における変容について述べられている。開平碉楼は、素朴な機能主義の「初期開平碉楼」から立派な洋風の「近代開平碉楼」へ変化し、伝統的な村の空間構造に属した建造物から僑郷農村空間の主役になった。そして、長い歴史的な封建宗族倫理制度を基礎とした宗族システムから資本主義民主思想を取り入れた資本力支配型の宗族システムが出現し、碉楼は華僑の社会的地位を表す象徴的存在となった。しかし、太平

洋戦争の暴発によって華僑は国外に逃亡し、華僑からの送金が断ち切られたため、碉楼は廃屋となる運命を辿った近代の変容について、十分な論証が成されている。

第七章及び終章のまとめと今後の研究では、こうした文化遺産の保存・再生の必要性が述べられ、ＧＩＳシステムを活用した管理システムやデータベースの作成など具体的な方法についての提案が成されていることも評価される点である。

本論文は、伝統的な農村の防御のための建築「初期開平碉楼」から始まり、「近代開平碉楼」が五邑地方の伝統的碉楼と民家の基礎の上に立って発展、継続し、自発的に近代の建築技術と建築文化を取り入れてきたものであることを、歴史的事実の分析、現地で資料収集と悉皆調査等を踏まえた結果により構成されている。そして各時代の経済社会状況、近代華僑の歴史とその背景、建築技術や建築文化など、多面的に捉え、論じていることは高く評価するものである。

今、世界遺産登録への展開過程にある「近代開平碉楼」は、そのことも含め、中国民間建築の近代化の中で、典型的且つ特異な実例として高い価値があることを十分に実証しているといえる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。